

保護者の皆様

学校評価について

苫小牧市立泉野小学校長 水内 雅史

学校では、12月に実施した保護者・児童アンケート及び教職員自己評価の集計と諸調査等の結果から今年度の学校経営を評価し、次年度の改善に向けた方策について検討を行いました。また、2月20日に学校関係者評価会議を開催し、学校評議委員、町内会役員、主任児童委員、PTA役員に学校の自己評価と次年度の方向性について評価をいただいております。学校の自己評価及び次年度に向けた改善について、次のとおりまとめましたのでお知らせします。

I アンケートの集計

教職員評価	A~よく取り組んでいる B~取り組んでいる C~あまり取り組んでいない D~全く取り組んでいない
保護者アンケート	A~そう思う B~どちらかといえばそう思う C~どちらかといえばそう思わない D~そう思わない E~よくわからない
児童アンケート	A~よくあてはまる B~だいたいあてはまる C~あまりあてはまらない D~あてはまらない

□～結果の考察 ※教職員の(個)は、自分自身の取組としてどうか、(全)は、学校全体の取組としてどうかを評価したものです。

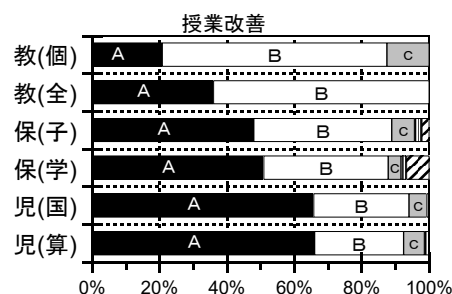
1 授業改善について

教職員	「できた」「わかった」を実感できる授業を行っている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)授業を通して学んだことが身に付きますか。 (学校は)児童が「できた」「わかった」を実感する授業を行っている。	
児童	国語の授業の内容はよくわかりますか。 算数の授業の内容はよくわかりますか。	

【目標】児童アンケート「授業が分かる」65%以上

【結果】国語 65.9% 算数 66.1%

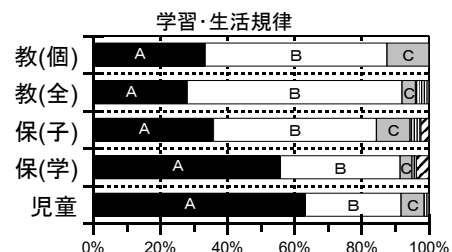
□日々の授業準備や校内研究の成果と捉えられる。新学習指導要領に対応した評価の準備を進めることが求められる。



2 学習・生活規律について

教職員	「泉野スタイル」に基づき、指導を徹底している。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)きまりを守って生活している。 (学校は)きまりや学習規律・生活規律の指導を徹底している。	
児童	学校のきまりを守っていますか。	

□「泉野Style」は定着しつつある。より徹底した取組が求められる。



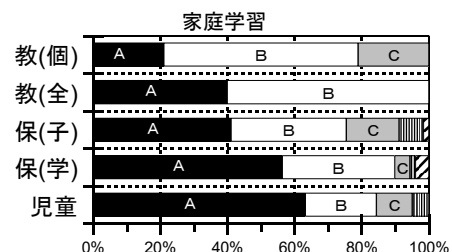
3 家庭学習について

教職員	家庭と連携して家庭学習の定着に取り組んでいる。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)自ら家庭学習に取り組む習慣が身に付いていますか。 (学校は)家庭と協力して家庭学習の定着を図っている。	
児童	進んで家庭学習に取り組んでいますか。	

【目標】児童アンケート「進んで家庭学習に取り組んでいる」65%以上

【結果】63.0%

□家庭学習定着に向けた学校の取組は、保護者から一定の評価を受けている。家庭学習と補充学習テスト直しの取組等と併せて総合的な学習サポートを確立していくことが求められる。



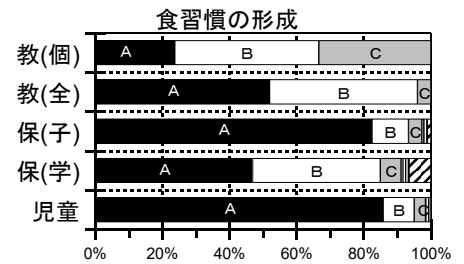
4 食習慣の形成について

教職員	給食指導や食に関する指導を通して、児童に食べることの大切さを意識付けている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)毎朝、朝食をしっかりとってから登校していますか。 (学校は)給食指導や食に関する指導などを通して、食育の充実に努めている。	
児童	毎朝、ご飯を食べていますか。	

【目標】児童アンケート「毎日、朝ご飯を食べている」86%以上

【結果】85.7%

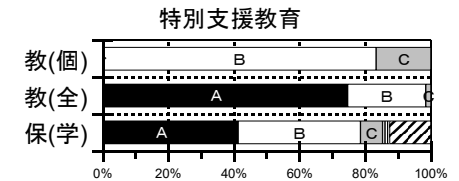
- 5月・9月の調査が85.6%だったことから、取組の成果が表れていない。教員は、食指導に十分に組み合っていないと感じている。家庭における生活習慣について一層の働きかけが必要である。



5 特別支援教育について

教職員	一人一人の特性や障害に応じた対応や支援を行っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)一人一人の特性や障害に応じた対応や支援を行っている。	

- 通級の専任指導教員が配置されたことにより、特別な支援を要する児童への支援が手厚くなった。特別支援学級、通級指導教室、通常学級の連携、段差のない支援の取組が必要である。



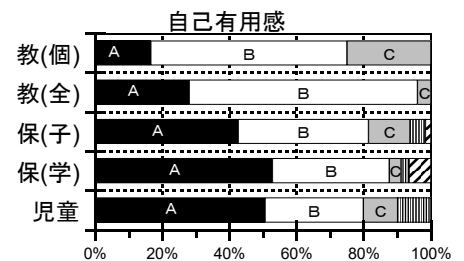
6 自己有用感について

教職員	個々の努力や小さな成長を見取って子どもや保護者に伝えている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)自分の頑張りや友だちのよいところについて家族に伝えていますか。 (学校は)児童の成長や頑張り进行评估して、自己有用感を育もうとしている。	
児童	自分にはよいところがあると思いますか。	

【目標】児童アンケート「よいところがある」の肯定的回答80%以上

【結果】79.8%

- 具体的取組事項の中で特に重点を置いて取り組んできたが、職員の回答が低く、児童アンケートが目標に達していない。子どもが安心できる居場所づくりが求められる。



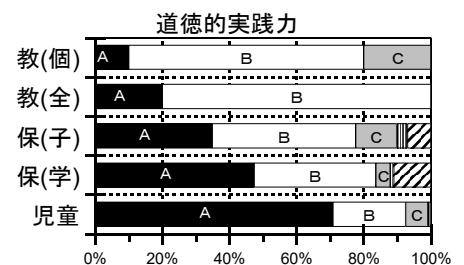
7 道徳的実践力について

教職員	道徳授業では、自己を見つめさせたり生き方について考えさせたりすることを通して、道徳的実践力を育てている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)友だちや下級生が困っていたら声をかけることができますか。 (学校は)道徳授業を通して、日々の生活や生き方について考えを深めさせている。	
児童	道徳の授業では、「自分だったらどうするか」考えていますか。	

【目標】児童アンケート「自分だったらどうするか考えている」75%以上

【結果】70.8%

- 授業では「考え、論議する道徳」に取り組んでいるが、まだ、道徳的実践力に結びついていない。道徳の授業の様子を学級通信等を通して積極的に発信する必要がある。



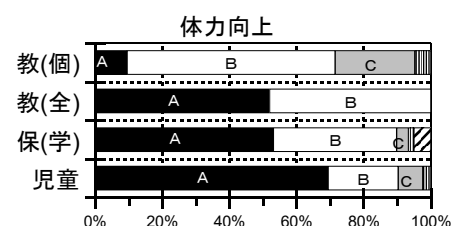
8 体力向上について

教職員	体育の授業改善や体力づくりを通して、児童の体力向上を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)体育の授業や体力づくりを通して、体力向上を図っている。	
児童	進んで体力づくりに取り組んでいますか。	

【目標】新体力テスト「50m走」「シャトルラン」全国平均以上

【結果】5年生男女の全種目で全国平均以上

- 体力づくり、運動会種目、マラソンなど、トータル的な改善を図ったことが成果として表れている。日常的に体を動かす(遊び)ことに取り組んでいくことが重要である。

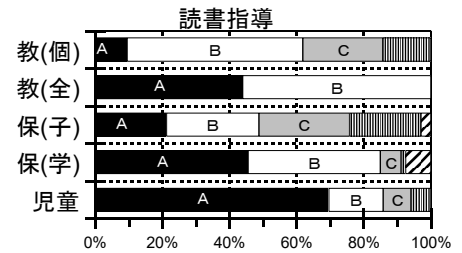


9 読書指導について

教職員	読書に興味をもたせ読書習慣の定着を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)学校以外で進んで読書していますか。 (学校は)朝読書などを通して、読書指導の充実に努めている。	
児童	読書することは楽しいですか。	

【目標】 障アアンケート「読書することは楽しい」肯定的回答85%以上
【結果】 85.7%

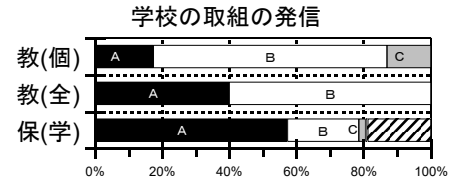
- 電算化の準備が年度末までに完了する。児童の実態に応じた取組、家庭への積極的な発信が必要である。司書教諭、司書、ボランティアのさらなる連携で、賑わいある図書館にしていきたい。



10 学校の取組の発信について

教職員	各種通信や参観日等を通して、保護者や地域に学校の取組や児童の様子を積極的に発信している。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)各種通信や参観日等を通して、学校の取組や児童の様子を伝えている。	

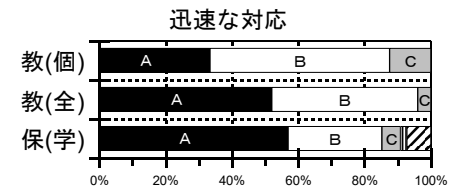
- 情報の発信はおおむね満足できる状況である。保護者からのフィードバックを充実させていくことが求められる。



11 迅速な対応について

教職員	保護者からの相談や要望、児童の悩みや相談ごとに耳を傾け素早く対応している。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)保護者の相談や児童の悩みについて耳を傾け素早く対応している。	

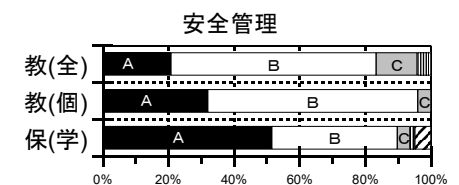
- 児童や保護者からの相談に対し、報告・連絡・相談を徹底し、保護者目線に立った対応を心がけていく必要がある。



12 安全管理について

教職員	登下校の安全や災害、学校事故等に適切な対応を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)安全対策(不審者・交通安全・災害等)を適切に行っている。	

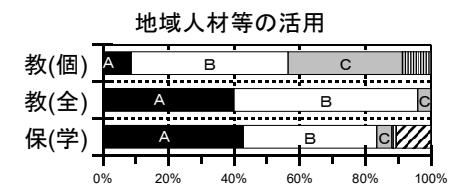
- 未然防止の取組、日常点検を怠らず、今後も安全で安心できる学校づくりを目指す必要がある。



13 地域人材等の活用について

教職員	地域の人材や保護者等を積極的に活用した学習や活動に取り組んでいる。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)地域の人材や保護者等を積極的に活用した学習や活動に取り組んでいる。	

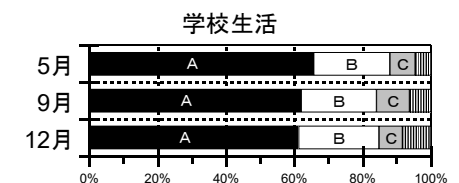
- 成果を次年度に残し、効果的な活用を図っていくことが求められる。



14 学校生活について

児童	学校は楽しい。	(5月) (9月) (12月)
----	---------	-----------------------

- どの子にとっても、居場所のある、自分を認めてくれる学校になるよう、更なる取組の充実に努めていく必要がある。



II 保護者アンケートの記述（多数記述があった事柄）

- ◇日常の児童との関わりや個に応じた学習指導、トラブルの対応など、担任への感謝の気持ちがたくさん記載されていた。
- ◇神奈川県で起きた殺傷事件の際の学校の対応、保護者による送迎の車の危険性、玄関の施錠、授業の際の安全への配慮など、児童の安全について意見があった。
- ◇放課後学習サポートや漢字大相撲など、本校の特色ある取組について評価されている。

Ⅲ 次年度に向けた改善点

【学校経営における具体的取組事項について】

～学ぶ意欲と確かな学力を育む取組～

- ① 単元や1単位時間の終末を明確にした授業の構築
- ② プログラミング教育の推進
- ③ 家庭学習・学習サポートによる補充的学習の充実
- ④ 通常学級と特別支援学級が連動した個別支援の確立

～自己肯定感と豊かな心を育む取組～

- ① 「自分ごと」として考える道徳授業の実践
- ② 児童会活動による互いのよさを認め合う取組の充実
- ③ 読書の楽しさ・魅力の発信
- ④ 適切な言葉遣いによる温かい雰囲気醸成

～生活習慣と健やかな体を育む取組～

- ① 「食べること」に関する指導の充実
- ② 「泉野Style」による生活習慣の確立
- ③ 運動習慣の確立（遊び、体力づくり週間の充実）
- ④ 体育授業における運動量の確保

～チーム泉野による信頼される学校づくり～

- ① 人材育成
- ② 教師力（資質・能力）の向上
- ③ 組織力（校務部・学年）の強化
- ④ 学校支援ボランティア本部の充実
- ⑤ 学校だより等による積極的な情報発信
- ⑥ 学校教育力向上エリア会議の機能化

- より安全・安心な学校、信頼される学校に向けて
児童用玄関を中央玄関に集約し、施錠などのセキュリティー対策を向上を図ります。
- 基礎基本となる学習の充実に向けて
テスト直し、スキル等の効果的活用、隙間時間の補充学習などを通して基礎基本となる学習の定着を図ります。
- 生活習慣の確立に向けて
家庭学習や朝の生活習慣、スマホ等の情報機器の活用について「泉野style」を通して、家庭と連携した指導を行います。